

音楽器楽	部外秘	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果		
		教出		
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>幅広い楽器を紹介する上で、演奏する喜びという演奏者の想いに焦点を当てることで、豊かな人間性と創造性を備えることにつながるよう配慮されている。また幅広い分野からの楽曲の選択は、日本の伝統音楽・西洋の音楽・現代の曲を取り入れることで、グローバル化が進む国際社会で力強く生き抜ける能力を育成するよう配慮されている。西洋音楽については、作曲家と作品について解説がコンパクトにまとめられている。生徒たちにとって身近な日本の伝統音楽である「さくらさくら」については、いろいろな領域・楽器にわたって演奏することができるよう工夫されている（p34, 35, 45, 52, 80）。和楽器を手作りで作成することで、和楽器を身近に感じ、伝統を尊重することにつながるよう配慮されている。リコーダーの運指が絵で記載されており、学力向上の手助けになりやすい。身近な和楽器である太鼓の奏法が詳しくいねいに記載されていることで、学力向上につながる。</p> <p>一方、使用頻度が高いリコーダーの運指表が、折り込み見開きページになっていることは、机の規格サイズからして使用しづらいとともに、特別支援教育の充実の観点においても配慮を要する。《⑤⑦⑧》</p>				
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>時代を背景に、リコーダーが変化してきた様子がわかる資料が記載されており、作品を通して音楽の歴史を理解できるなど、幅広い教養と知識を身につけることができるよう配慮されている。「音楽一般」の歌唱教材と同じ曲を使用することで、我が国と郷土を愛する態度を養うよう配慮されている。楽器の奏法にとどまらず、コンピュータによる音源制作を記載することで、幅広い知識と教養を身に付けることに配慮されているが、楽器の奏法との結びつきが薄く、豊かな情操と道徳心を培うことに至っていない。《①⑤》</p>				
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>表現の幅広い活動を通して、豊かな情操を養うことができるよう、日本の伝統楽器の奏法についてはいねいな説明がなされている。さらに、特に日本の伝統楽器について、楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏できるよう配慮されており、写真資料によって細かく掲載されている。リコーダー教材については、各ページの端の部分に運指表が示されており、基礎的な奏法を生かして演奏できるよう配慮されている。《①⑥⑩》</p>				
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本が丈夫で装丁も良いが、折り込み見開きページが多く使われている。楽譜のページに色彩が豊富に用いられている。さらに挿絵・写真が、特に日本歌曲について豊富に使われている。《①》</p>				
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>生徒の発達段階を考慮して、題材・教材が系統的に配列されている。楽器の奏法についての説明がいねいになされ、基礎基本となる能力をさらに高められるよう配慮されている。同じ楽曲がいろいろなページにまたがって配列されている。（「さくらさくら」）《①④》</p>				
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>資料が多彩に組み込まれ、文字・文章等の情報量が多い。リコーダーの運指表が、折り込みを開いた大きなページによって記載されている。サミング奏法についての説明が記載されている。日本の伝統楽器と音楽についての資料が、折り込みを開いた大きなページの中に、年表とともに記載されている。《③》</p>				

音楽器楽	部外秘	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果				
		教芸				
<p>1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点</p> <p>我が国の伝統音楽において使われる和楽器を取りあげていることはもちろん、諸外国で発展を遂げてきた楽器を教材として取りあげることで、我が国の伝統を尊重する心とともに、国際社会において他国の文化を理解する心を培うことができる内容となっている。和楽器ならびに西洋楽器の演奏写真を掲載することで、それぞれの器楽合奏の形態・容姿なども見てとることができ、各文化の持つ特色を音楽の視点から知ることができる。また、現在活躍する日本人の音楽家を楽器と共に紹介する中で、演奏者の楽器に対する思いや楽器との出会いのエピソードなどが掲載されており、豊かな人間性と創造性を備えることができる内容となっている。さらに、生徒の視点に立った学習の手立て（リコーダーの楽譜の音域を示すことや演奏のポイントを示したQ&A）を示すことで、音楽科としての学力の向上につながる内容となっている。生徒たちにとって身近な日本の伝統音楽である「さくらさくら」については、いろいろな領域・楽器にわたって演奏することができるよう工夫されている（p29, 37, 80）。《④⑤⑥⑦⑧⑨⑩》</p>						
<p>2. 教育基本法に基づく観点</p> <p>各楽器の特徴や音色を考慮した楽曲を掲載し、我が国をはじめ諸外国の音楽を尊重する態度を育てることのできる内容となっている。さらに西洋音楽の名曲を通して、過去の偉人の想いやヨーロッパ諸国の歴史的背景を知ることで、幅広い教養を身に付けるとともに、他国の文化を尊重する心を培うことのできる内容になっている。《①⑤》</p>						
<p>3. 学習指導要領に基づく観点</p> <p>各楽器の基礎的な奏法が示されているのはもちろん、リコーダーにおけるアーティキュレーションや箏における様々な奏法など、各楽器の特徴をとらえたうえで、表現を創意工夫して演奏できるように示されており、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じることができるよう配慮されている。またそれらの学習内容を活かし、アンサンブル活動ができるよう、教材にも工夫がなされており、声部の役割や全体の響きを感じるとともに、仲間と音楽活動を楽しむ工夫がなされている。さらに、日本の伝統音楽「さくらさくら」の前奏を創作することや（p31）、「春」（ヴィヴァルディ作曲）（p57）、「ブルタバ」（スメタナ作曲）（p66, 67）などの楽譜が掲載されるといった、創作や鑑賞の領域との関連のある教材を取り入れており、多様な音楽表現の豊かさを感じられる内容となっている。音楽表現を豊かにするためのアーティキュレーションについての学習（p9）が、旋律に様々な表情を与えており、創意工夫して表現する能力を育てることができるよう配慮されている。《①②③④⑧⑨》</p>						
<p>4. 外的要素に関する観点</p> <p>製本が丈夫で装丁も良い。楽譜・挿絵・写真などが鮮明で、かつシンプルな色づかいが用いられている。また文字・楽譜の大きさ・フォントおよび文字間や行間、楽譜と楽譜の間の余白部分などが適切で、印刷も鮮明である。</p>						
<p>5. 構成・配列に関する観点</p> <p>生徒の発達段階を考慮して、題材・教材が系統的に配列されている。また音楽（一般）分野とも相互に関連性が深くそれぞれにおいて効果的な学習ができるよう配列されている。それぞれの教材や活動が見開き4ページ以内でまとめられており、週時数1時間の授業時間内でも学習を深めやすく、生徒にとって必要な知識や情報が的確に理解できるよう工夫されている。《①②③④》</p>						
<p>6. 資料その他に関する観点</p> <p>写真資料が多様であるが、量や配置は適切かつ適当で、音楽に対する想像を湧き起こすものとなっているとともに、学習内容の理解を深めやすいものとなっている。特に楽器の奏法についての写真資料は生徒にわかりやすく正確なものが用いられており、学習活動の一助となるよう配慮されている。《①②③》</p>						